

人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根をつくる

島根\*創生  
SHIMANE SOUSEI

# Reason Shimane

リーズンしまね

「みんながしまねで暮らす理由」



しまねっこも  
知りたいにゃ。

島根県にしかない魅力を  
4人の方の暮らしを通じて  
ご紹介します。

仕事

暮らし

子育て

この紙面はホームページでも  
ご覧いただけます。  
離れて暮らすご家族・ご友人へも  
ぜひお知らせください。



島根県観光キャラクター「しまねっこ」島根連許第6520号



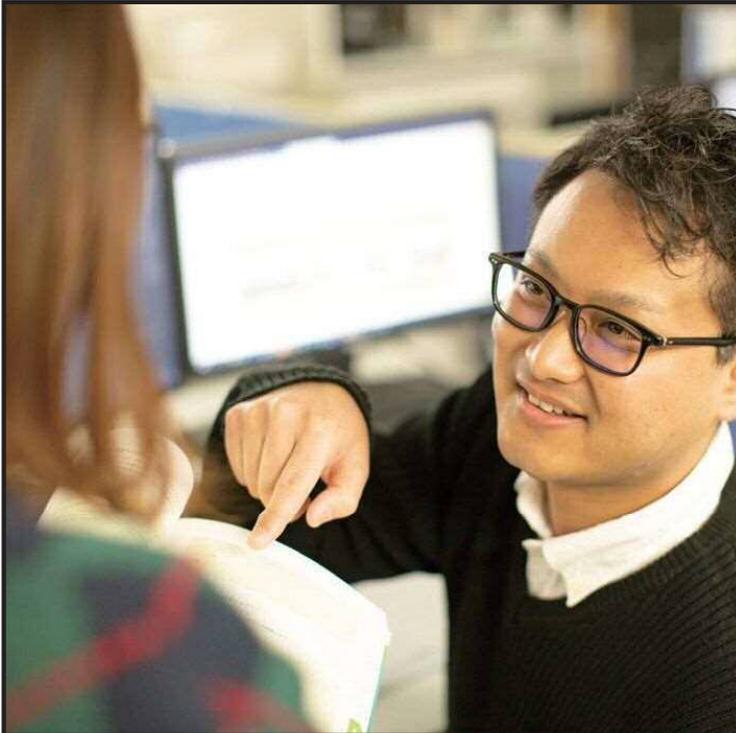
リーズンしまね

Reason Shimane

しまねで自分らしく働ける

# 仕事

しまねで自分らしく  
働いているお二人を  
ご紹介します。  
好きな環境で  
趣味の時間、  
家族との時間も  
大切にされています。



大阪—松江市—Uターン

都会の人混みが苦手だった  
体調不良がきっかけで、  
働き方、暮らしを見直す

在宅勤務する時も、通勤中も  
子どもの頃から親しんだ景色を見ると  
忙しくてもストレスフリー

石倉薫さん(松江市、36歳)



システムエンジニアの石倉薫さん(36)がIT(情報技術)に関心をもち始めたのは中学時代。夢中になつたゲームプログラミングに興味を持ち、高校生になるとプログラミング言語の言語に取り組んだ。兵庫の大学では情報芸術学を専攻し、主修デザインを学び、卒業後、大阪のIT企業に就職した。ここはとにかく多忙だった。1時間かけて満員電車で通勤。朝早くから夜遅くまで勤務することも多く、ついに体調を崩してしまつた。「都会の人混みが苦手でしたし、長男なのでゆくゆくは帰りたいと思つていました。働き方や暮らしを見直す時期がきたのかなと思ひました」と振り返る。

6年前、30歳で地元松江市にUターン。広島のIT企業の松江オフィスを勤務を経て2019年7月、松江市内の地元IT企業に転職した。社員10人の現在の職場ではシステム開発とサーバー管理のエンジニア、デザイナー職を兼務する。同社の阿部勝社長は「都会の厳しい環境でもまれてきただけにスキルが高く、クリエイティブ面を追求する姿勢は他の社員の意識改革やレベルアップにつながる」と評価。今後もUターンインターン者を積極的に採用したいという。

帰郷後の住まいは農業を営む市内の実家。六通湖を望む山あい、通勤は車で30〜40分かかるが、取って進んだ。

職場で常態として取り入れていたテレワークは、コロナ後はさらに加速。在宅勤務の機会も増えている。

勤務時間外の副業も認められており、実際の仕事量は大阪時代と変わらないが、「在宅勤務する時も、通勤で出掛ける時も、子どもの頃から親しんだ六通湖の景色を見ると、リラックスできる。こんな生活環境で仕事ができるので、忙しくてストレスフリーです」と石倉さん。体調面を心配をかけてきた両親を安心させたという気持ちもあつたという。

母親の由美子さん(61)は「大阪に居てもやがいの仕事ができ、幸せでいてくれたらいいと思っていました。でも、帰ってきたくて心強いです」と喜ぶ。

スキルを磨けばどこでも働ける

新型コロナウイルスの感染拡大でテレワークが全国に広がり、移住や地方移転、都市部に住みながら副業で地方に関わる、さまざまな働き方が注目されている。

石倉さんは「もともとIT業界は在宅勤務への移行率が、10割という世界。これからは空間の壁を超え、進んで働く時代。スキルを磨けばどこに居ても働けます」と、移住を考へるIT技術者にメッセージを送る。



奈良 隠岐の島町 Iターン

## 「島留学」通じ就職決意 豊かな自然も後押しし 隠岐の島に定住

漁業はやる気さえあればどんどん可能性が広がる魅力的な仕事

村上優輝さん(隠岐の島町、19歳)



昨年、隠岐の島町で漁師1年目のスタートを切った村上優輝さん(19)は海のない奈良の出身いわゆる「Iターン」漁師だ。

4年前、1歳上の兄が先に入学していた隠岐水産高校に島留学したのがきっかけ。勉強嫌だった兄が楽しそうに学ぶ姿に興味を引かれたという。

海洋生産科に進み、資源生産コースで魚介類の養殖や沿岸漁業、海洋環境を学んだ。就職先は県外の養殖業者と迷ったが、「この島で挑戦したい」と隠岐の島町の巻き網漁業会社が決めた。

夜出港し、巻き網の漁に出る。主漁場は隠岐沖、時には浜田や大社、恵曇沖で操業し、主テナシやサバイワシを狙う。明け方の掃港まで続く漁はハードだが「仕事は先輩の皆さんに教えてもらいながら、覚えているところ。二日も早く、人前になりたい」と意欲的。先輩漁師の井澤裕さん(58)は「真面目でやる気、経験を積んで長く漁師を続けてほしい」と優しく、時に厳しく見守る。

休日には趣味の釣りを楽しみ、車の免許を取って島内のドライブという新しい趣味もできた。那久岬や白島の展望台など、お気に入りの風景を見つけたのも楽しんだ。「隠岐の自然

が大好き。じやかな郡会よりも、自然の中にいる方が僕は楽しいんです」。好きな環境での暮らしも隠岐就職を後押ししたのだという。

漁師の高齢化、後継者不足深刻期待の新人

村上さんは隠岐水産高校から30年ぶりに入社し、新顔、漁業者の担い手が減る中で期待の新人だ。

漁師の高齢化、後継者不足に対応しようと同社は5年ほど前から若い世代を積極的に採用しており、今春も隠岐水産高校の卒業生と地元20代の計4人が入社予定。野津千寿夫社長(70)は「若い力で隠岐の漁業を盛り上げてほしい」と期待を込める。

高校で学んだ養殖事業を手がけるのが将来の夢

「暖流と寒流がぶつかる豊かな漁場をつくり、魚種も豊富な隠岐ですが、大切な海の資源を守り育てる漁業にも挑戦したい。漁業はやる気さえあればどんな可能性が広がる魅力的な仕事だと思います」と村上さん。将来は、高校で学んだ養殖事業を手がけ、島根の水産業に貢献したいと考えている。



※取材、撮影は、新型コロナウイルス感染症対策を行った上で実施しました。感染症対策に配慮した上で、一部マスクを外して撮影しています。

<p><b>通勤・通学時間</b></p> <p>往復 58分</p> <p>短さ 全国2位</p> <p>(H28年社会生活基本調査)</p>	<p><b>他市町村への通勤者</b></p> <p>少なさ 全国1位</p> <p>(社会生活統計指標2020)</p>	<p><b>仕事時間</b></p> <p>5時間 45分</p> <p>短さ 全国5位</p> <p>(H28年社会生活基本調査)</p>	<p><b>帰宅時間</b></p> <p>18:16</p> <p>早さ 全国2位</p> <p>(H28年社会生活基本調査)</p>	<p><b>若者の就業率</b></p> <p>全国1位</p> <p>(H27年国勢調査)</p>	<p><b>完全失業率</b></p> <p>低さ 全国1位</p> <p>(社会生活統計指標2020)</p>
--	---	--	--	--	--

しまねの魅力  
仕事編

くらしまねのサイトはこちら  
<https://www.kurashimanet.jp>



8面に  
仕事探しに役立つ  
サイトについて  
紹介しています。

自分らしく働きたい。  
ワークライフバランスを  
大切にしたい。  
そんな  
あなたの希望を叶える  
あなたを必要としている  
あなたにぴったりの職場が  
見つかります。  
通勤時間が短く、  
帰宅後はしっかりと  
リフレッシュできます。



リーズンしまね

Reason Shimane

しまねで潤いのある

# 暮らし

しまねに戻られて

夫婦の第二の人生を

楽しむ方をご紹介します。

50代でも新しいことに

挑戦することで

生き生きとした笑顔で

日々を過ごされています。



東京 大田市 Uターン

生まれ育った島根で  
何かできないだろうか  
と考えるように

「まだまだ新しいことに挑戦できるぞ」と  
故郷でのリスタートを楽しむ50代

本村志磨さん(大田市、59歳)



東京の公立中学校で養護教諭をしていた本村志磨さん(59)。多忙ながら充実した日々を送っていたが、48歳で大病を患ったことで、急に故郷大田市が懐かしく、一人暮らしの高齢の母親が心配になったという。

「開病が仕事中心のこれまでの生き方を見直すきっかけになりました。親の生活を支援しながら、生まれ育った島根で何かできないだろうか」と考えるようになり「と当時を振り返る。

将来のことも考え、Uターンを決意。「地域の人が集えるたまり場、居場所が知りたい」「子どもから高齢者まで地域まるごと元気になる場所」と構想を巡らせるうち、カフェの経営が候補に。早速空き家探しを始めた。

「日本海に沈む夕日が見える場所」を探し、希望通りの物件が日本海の和江港沿いに見つかった



ことから5年前、54歳で早期退職して単身帰郷。実家で母親と同居しながら準備を進め、1年後、カフェ「Stay & Cafe WAMOTO」と民泊施設をオープンさせた。

公立中学校の技術家庭科教師だった夫の雄二さん(62)も定年退職後の2019年5月に移住。店を手伝う傍ら、前職を生かして簡単なリフォームや木工品製作、デザインなどを手がける会社を起業。地域の子どもの向けの椅子作り教室や、地域イベントのポスター制作などを始めている。

夫の雄二さんは東京出身だが、毎年お盆と正月に訪れる大田市に親しんでいた。「自然は美しい、地域の人たちは親切で優しい、いわゆる田舎を持たない私が、第二の人生を送るにはいい場所です」と言う。

終の棲家にと空き家をもう一



軒購入し、セルフリフォームも進めている。

子どもから高齢者まで、地域まるごと元気にする空間に

夫婦の第二の人生の舞台は、元々漁師の住居。港に面した漁師小屋をカフェスペースに。世界遺産・石見銀山や三瓶山、温泉津温泉など魅力ある場所がたくさんあるのに宿泊客が少ないのがもったいないと思っていたことから、奥の民家部分は1日1組限定の民泊施設にした。

近所の高齢者や、中学生や高校生、ママ友のグループなど幅広い年齢層の常連客でにぎわうカフェは、大きなハンバーガーがSNSや口コミで話題になり、これを目当てに訪れる県外客も、海に向かつて座れる窓際のカウンター席は時

毎日のように夫婦で来店する月森喜久さん(71)はオープン当初からの常連。(2)夫婦とも明るく楽しい人で、居心地がいいからという長居してしまう。顔見知りになるのも楽しいですよ。という。近所の藤井英博さん(71)もウオーキングの後に立ち寄るのが日課。「習慣になつて行かないと落ち着かない感じ。こういう場所ができてうれしい」と話す。

主に県外の観光客を想定していた民泊施設は釣り客の利用も多く、地元の高齢者や子育てグループ、高齢者の女子会、企業の会議などレンタルスペースとしての利用も増えたと。

50代でも新しいことに挑戦できます

今後の夢は、店を地域のコミュニティカフェに育てていくこと。

コミュニティカフェとは、地域の中で「たまり場」「居場所」になっているところの総称で、レストランや居酒屋などさまざまな形態で10年前ごろから全国的に広がった。

主に高齢者対策としての開設が多いが、「保健室で生徒の相談を受けてきた教員時代の経験を生かして、若い人たちの悩みを聞いたり、Uターン・イターンの交流をつなぐ場にもしたい。からっと立ち寄れ、居心地の良い空間を楽しめる。出会いがあり、交流が生まれ、地域活動やまちづくりにつながることもできる場所にしていけたら」と志摩さん。

「私は50代でのUターンでしたが、『まだまだ新しいことに挑戦できるぞ』と思って故郷でのリスタートを来しています」と、今日も笑顔でお客さんと向き合っている。



※取材、撮影は、新型コロナウイルス感染症対策を行った上で実施しました。感染症対策に配慮した上で、一部マスクを外して撮影しています。

<b>美肌ランキング</b>  <b>全国1位</b> <small>グランプリ獲得回数日本一 (美肌県グランプリ2012~2018)</small>	<b>睡眠時間</b>  <b>7時間53分</b> <b>全国5位</b> <small>(H28年社会生活基本調査)</small>	<b>住宅地価格</b>  <b>安さ全国7位</b> <small>(H30年都道府県地価調査)</small>	<b>持ち家住宅延べ面積</b>  <b>全国7位</b> <small>(社会生活統計指標2020)</small>	<b>ボランティア活動</b>  <b>全国3位</b> <small>(H28年社会生活基本調査)</small>	<b>交通事故発生件数、死傷者数</b>  <b>人口10万人あたり 少なさ全国1位</b> <small>(社会生活統計指標2020)</small>
--	---	---	---	--	--

しまねの魅力  
暮らし編

くらしまねのサイトはコチラ  
<https://www.kurashimanet.jp>



8面に  
UターンやIターンの  
相談窓口を  
紹介しています。

くつろぎながら、  
自分の生きがいのために  
時間を使えます。  
新鮮な食べ物や  
温泉も豊富で、  
潤いのある暮らしが  
満喫できます。



リーゾンしまね

Reason Shimane

しまねの自然で伸び伸びと

# 子育て

しまねで  
伸び伸びと子育てする  
夫婦をご紹介します。  
子どもたちは  
地域の人に見守られ  
自然の中で自由に遊ぶ。  
そんな豊かな生活が  
ここにはあります。



東京 吉賀町 イターン

農業と暮らしが  
一体化した  
暮らしがしたい

「大きな川と山がある風景の場所がいい」と  
研修で訪れた吉賀町柿木村へ移住

持田杏奈さん(吉賀町、34歳)



東京生まれ、東京育ちの持田杏奈さん(34)は、農業に憧れがあった。北海道の東京農大網走キャンパスで昔ながらの有機農業に魅せられ、援農で全国の有機農家を巡るうちに興味を深まり、島根大学の大学院に進んで研究を続けた。

いったん農業関連の会社に就職したが、「やっぱり農業と暮らしが一体化した暮らしがしたい」と思いが募り、3年で退職し、移住先を探し始めた。漠然と「大きな川と山がある風景の場所がいい」と考えていたことから、研修で訪れたことがあった吉賀町柿木村がまず思い浮かんだという。下見に来て、「こた」と確信。「衣食住が揃った昔ながらの暮らしができる」とわくわくした。

子どもたちも地域の中で育ててもらっています

港さん(34)と出会った。「炭焼きをしているのがいいな」と思い、私の方から猛アタックしました」と笑う杏奈さん。2年後に結婚。長女の梅ちゃん(4)、次女の種ちゃん(0)が誕生し、家族4人の生活がスタートした。

夫婦共働きのため保育所が心配だったが、都会のような待機児童もなく、杏奈さんは移住直後から農産加工組合でみそや梅干し、餅などを製造する仕事を続け、昨年からは森林組合に勤務する港さんは山仕事を任せ流す。2反弱の田んぼを借りて、夫婦2人で有機栽培のコメづくりも始めた。

一家の暮らしを支えるのは、地域の人たち、家族ぐるみで付き合うイターンの仲間たちだ。毎日のように野菜や手作りのおかずが届き、子どもを預かってもらうなど、子育ての支援も心強い。



サトちゃんと呼ぶ斎藤定子さん(76)は移住当初からお世話になっている職場の先輩、野菜や山菜を分けてくれ、子どもたちを孫のように可愛がってくれる。斎藤さんは「私の方がお子さんたちの声に元気をもらっていますよ。町に若い家族が増えるのはいいこと。できることはしてあげたい」と目を細める。

杏奈さんは「この町は優しい気持ちや声や手がたくさんある場所です。血縁もなく、夫婦だけでは行き詰まっていたかもしれません。子どもたちも地域の中で育ててもらっています」と話す。

**2年かりで古民家を改修  
たくさんのごだわりが散りほめられた新居**  
2019年11月には念願の新居が完成。高津川支流、福川川の近く、坂道を上ったつき当たりにはポツンと建つ築100年超の空き

家を見つけ、9年かりで改修した。杏奈さんが思い描いていた川の近く、正面には季節で姿を変える山の景色が広がるロケーションだ。

古い梁や柱、建具を残し、港さんが壁の漆喰を塗った。家の真ん中には家中を暖める大きな薪ストーブ。無垢材のちゃぶ台や食器棚、壁にはめ込んだガラスは「ターン仲間の職人や作家の作。壁二面の本棚は、山から集めてきた皮が付いたままの木で棚を付けた。姉妹は絵本を読み聞かせてもらうのが大好きだ。

庭に山の湧き水を引き込み、丸太が椅子代わりに、庭で港さんが薪割りをする横でお茶を飲んだり、近所の山道を散歩しながら野イチゴや野草を摘んだり、木の枝や松ぼっくりを拾い集めて工作の材料にする。クリスマスツリーも山の木で手作りする。



「都会のような遊び場はないけど、ここには自然の中で楽しめる素材がたくさんある。やりたいことがたくさんあるから、我が家はテレビがないです。今の暮らしには必要ないかと思っています」  
**これからの夢 地域への恩返し  
有機栽培の田んぼで子どもの居場所づくり**  
昨年、自家の田んぼで地域の子どもたちに田植えや稲刈り、はで干しの作業を体験してもらった。今春には自宅の庭先で、収穫したお米でおにぎりの会を催す計画だ。  
「子どもたちも親も楽しく交流して、個々があれば相談できる場をつくりたい。思い付いたことはどんどん挑戦したいし、自分ができることで地域に恩返しができるばいいな」と杏奈さん。大好きなこの町での生活に夢は膨らむばかりだ。

※取材、撮影は、新型コロナウイルス感染症対策を行った上で実施しました。感染症対策に配慮した上で、一部マスクを外して撮影しています。

<b>育児中の女性の有業率</b> <b>81.2%</b> <b>全国1位</b> <small>(H29年就業構造基本調査)</small>	<b>合計特殊出生率</b> <b>1.68</b> <b>全国3位</b> <small>(R元年人口動態統計)</small>	<b>保育所待機児童数</b> <b>0人</b> <small>(R元年県調べ)</small>	<b>保育所数</b> <small>人口10万人あたり</small> <b>全国2位</b> <small>(社会生活統計指標2020)</small>	<b>軽自動車普及率</b> <small>世帯あたり</small> <b>全国4位</b> <small>(H30時点 全国軽自動車協会連合会)</small>	<b>一般診療所数</b> <small>人口10万人あたり</small> <b>全国2位</b> <small>(社会生活統計指標2020)</small>
---	--	---	---	---	---

しまねの魅力  
子育て編

しまね縁結びサポートセンターのサイトはコチラ  
<https://www.shimane-enmusubi.com>



8面に  
子育てや縁結びを  
サポートする窓口について  
紹介しています。

仕事をしながら  
「子どもをもう1人  
育てたい」という  
希望も叶えやすい環境です。  
自家用車を持ちやすく、  
通勤途中に保育所の  
送り迎えもできるので、  
雨の日でも快適です。

# しまねへのUターン・Iターンをご検討の方へ

## 定住財団の Uターン・Iターンの相談窓口

お電話・メールでのお問い合わせもお待ちしております。

農業、林業、漁業  
などの第一次産業に  
チャレンジしたい...

島根県への移住を考えて  
いるけど、何から始めたら  
良いのかわからない...

島根県内の  
市町村を比べて  
移住したい...

仕事があれば  
移住をしたいの  
だけど...

どんな移住支援  
制度があるのか  
知りたい...

ふるさと島根定住財団は  
島根県内の定住支援情報  
集まる相談窓口です。

<p><b>出雲・隠岐エリア</b></p> <p>出雲エリア   松江市・出雲市・安来市・雲南市・奥出雲町・飯南町 隠岐エリア   海士町・西ノ島町・知夫村・隠岐の島町</p> <p><b>松江事務局 (Uターン推進課)</b> 〒690-0003 島根県松江市朝日町478-18 松江テラス3階 <b>TEL 03-6281-0690</b> uiturn@teiju.or.jp</p>	<p><b>石見エリア</b></p> <p>石見エリア   浜田市・益田市・大田市・江津市・川本町 美郷町・邑南町・津和野町・吉賀町</p> <p><b>石見事務局</b> 〒709-0004 島根県浜田市朝日町1381-4 シティビル浜田2階 <b>TEL 0855-25-1600</b> iwami@teiju.or.jp</p>
<p><b>東京</b></p> <p>しまね移住支援サテライト東京 〒100-0011 東京都千代田区千代田1丁目1-1 南田ホテルタワー10階10B-6 <b>TEL 03-6281-9800</b> soudan-tokyo@teiju.or.jp</p>	<p><b>ふるさと帰郷支援センター 島根ブース</b> 〒100-0006 東京都千代田区有明町2-10-1 東京交通会館8階 <b>TEL 090-1683-6613</b> soudan-tokyo@teiju.or.jp</p>

東京圏内のイベントやセミナーなども企画しています。

しまねUターン総合サイト

ネットはこちら **くらしまねっと**

### 仕事探しに「くらしまねっと」を オススメする3つの理由

- 理由01** 求人数5,000件以上! (2020年12月16日時点 5,256件)  
**島根県内で最大級の求人掲載数!**  
サイト上で企業とやりとりをしたり、担当スタッフが件介を行ったりできます。
- 理由02** 簡単に魅力的なWeb履歴書作成が可能!  
**効率的に企業へアピールができる!**  
これまでの経験や希望職種を一度入力すれば、複数の企業へアプローチできます。
- 理由03** Web上のマッチング機能を強化!  
**島根の企業とご縁がつながる!**  
あなたにマッチした求人を紹介するリコメンド機能や企業から直接スカウトメールが届くことも。

登録・利用無料! 県内移住支援情報満載!

くらしまねっと 検索

<https://www.kurashimane.jp/>  
QRコードはこちら

公益財団法人 **ふるさと島根定住財団**

松江事務局  
〒690-0003 島根県松江市朝日町478-18 松江テラス3階  
TEL:0852-28-0690 / FAX:0852-28-0692

## 子育て中の方へ

子育てを地域みんなで応援しよう

しまね子育て応援パスポート「こっころ」  
**『こっころカード』が  
アプリになります**

2021.4.1  
START

アプリに  
なると何が  
変わるの?

- POINT 01** お近くの協賛店・赤ちゃんほっとルームがいつでも確認できます。
- POINT 02** 県・市町村からの子育て世帯向け最新情報が確認できます。
- POINT 03** スマホ2端登録可能! これまでは、子育て世帯に1枚のカードを交付していましたが、カード1枚につきスマホ2端末で登録いただけます。
- POINT 04** 偽造や不正利用を防止します。セキュリティ機能も万全!

しまね子育て応援パスポート **こっころ**

お問い合わせ **島根県健康福祉部 子ども・子育て支援課**  
TEL 0852-22-6475 FAX 0852-22-6124  
〒690-8501 島根県松江市殿町1番地

## 結婚を望まれる方へ

独身男女の縁結びをお手伝い

縁結びボランティアによる出会いのきっかけづくり

あなたのご縁を検索しよう〜ご自身でお相手探し〜

**「はびこ」**

「はびこ」とは結婚を望む独身男女の縁結びを応援するボランティアです。結婚を望む独身男女の相談に応じ、出会いのきっかけづくりをします。「はびこ」が開催する結婚相談会(交流サロン)は、県内、各会場で月1回程度、開催しています。相談会の日程はHPをご覧ください。センターへお問い合わせください。

「はびこ」の流れ

- 1 電話・メール相談
- 2 結婚相談会・はびこ紹介
- 3 はびこごとの面談
- 4 お引合せ・出会いイベントに参加
- 5 交際スタート
- 6 結婚・退会

**「しまこ」**

「しまこ」とは、有料会員制マッチングシステムです。結婚を望む独身男女が自身のプロフィールを登録し、お相手の情報を閲覧して、お会いになりたい方を探していただきます。コロナ影響下でも安心安全なリモート登録、チャット機能も加わりました。詳しくはHPをご覧ください。

「しまこ」の流れ

- 1 入会申し込み
- 2 会員登録 (登録用の書類※1の提出と入会登録料※2が必要)
- 3 iPadによるお相手探し
- 4 サポーターがお引合せを調整
- 5 お引合せ
- 6 交際・成婚

(※1) 登録に必須となる書類の詳細や注意事項は、しまね縁結びサポートセンターの公式サイトをご覧ください。(※2) 入会登録料10,000円

公益財団法人 **しまね縁結びサポートセンター**  
SHIMANE ENMUSUBI SUPPORT CENTER  
<https://www.shimane-enmusubi.com>

松江 TEL 0852-61-1150  
浜田 TEL 0855-25-1150

島根県

**島根創生計画**  
笑顔あふれるしまね暮らし宣言

島根には、自然と歴史の中で営んできた、人々の豊かな暮らしがあります。

近所では、子どもたちが元気に走り回り、若者は恋愛をし、趣味を楽しみ、地域活動にも参加する。

家族を思い、やりがいのある仕事に就き、高齢になっても、元気で生きがいを感している。皆で囲む食卓は笑い声に包まれ、穏やかに心地よい時間が流れる。

そんなごく普通の暮らしです。

地域の助け合いや絆が残る古き良き人間関係が、郷土愛と誇りを育み、人々の多様な関わりを通して生まれる新しい試みが、未来への希望を高め、暮らしをより豊かなものにしていきます。

この人間らしい、温もりのある暮らしを、ここで営み続けたい。

未来の子どもたちへ、大切に贈り届けたい。日本中の多くの人へ、島根にしかない暮らしを知ってもらいたい。

「島根創生」の始まりにあたり、「笑顔あふれるしまね暮らし」を守り、育て、未来つなげていくことを、ここに宣言します。

